

活動目標 すこやかに育て いわてっ子

PTAいわて

学校教育目標

生き生きとしたみどりの子

～かしこい子 たくましい子 思いやりのある子～



「みどフェス！」 仮装ファッションショー



ちょボラ (PTA) と一緒に花壇整備



あいさつレンジャーによるあいさつ運動



家庭教育学級「親子で学ぶ正しい歯の磨き方」

盛岡市立緑が丘小学校 PTA

No.180

令和7年2月28日発行

発行

一般社団法人岩手県PTA連合会
盛岡市みたけ三丁目38-20

☎019-641-6444

E-Mail: pta@iwate-pta.or.jp

URL: http://www.iwate-pta.or.jp

印刷

山口北州印刷(株)

盛岡市青山四丁目10-5

☎019-641-0585

本校は、明治29年に創立し、令和7年度に130周年を迎えます。自らのよさや可能性を發揮して探究的に行動し、よりよい未来を創る生命力豊かな人づくりを目指しています。

PTA活動では、「みどフェス!～みどりのハッピーハロウィン～」にて、各学年の趣向を凝らしたゲームのお店や、図書ボランティアや少年指導員、地域のスポーツ教室のコーナーもあり、保護者、地域と一緒に楽しく交流を行っています。また、PTA役員による「あいさつレンジャー」が玄関前に現れた日は、子供たちの挨拶の音が明るく響いています。

(事務局 田代 由希)

主な内容

- ・ 県PTA連年次表彰式 …………… 2～3
- ・ わが町の教育 …………… 4～5
- ・ 第29回家庭教育セミナー …………… 6
- ・ 東北ブロックPTA研究大会
東青大会 …………… 7
- ・ 日本PTA研究大会 川崎大会 …… 8
- ・ 北から南から …………… 9
- ・ 市町村PTA連合会紹介 …………… 10
- ・ 全国表彰PTA紹介 …………… 11
- ・ お知らせ …………… 12

受賞者の皆様

おめでとうございませう

令和6年度岩手県PTA連合会年次表彰式



山下会長の主催者挨拶

令和6年11月30日(土)、令和6年度年次表彰式をホテルメトロポリタン盛岡で開催しました。受賞された皆様は、個人・団体を合わせてのべ72です。これまで子どもたちの健やかな成長のために、様々な工夫を凝らしながら活動をしていただきましたことに、改めて敬意と感謝を申し上げます。また、広報コンクール、三行詩コンクールの入賞の皆様にも心よりお祝いを申し上げます。

受賞された皆様は次のとおりです。(順不同敬称略)

年次表彰感謝状(4名)

向井隆、金野貴博、小川さつき、昆尚人

年次表彰団体の部(23PTA)

平山小学校PTA、鳥海小学校PTA、沼宮内小学校PTA、滝沢第二中学校PTA、西の杜小学校PTA、不動小学校PTA、見前小学校PTA、生田小学校PTA、仙北中学校PTA、桜台小学校PTA、八幡小学校PTA、和

年次表彰個人の部(46名)

賀東小学校PTA、和賀東中学校PTA、水沢南小学校PTA、黒石小学校PTA、赤荻小学校PTA、山目小学校PTA、末崎小学校PTA、米崎小学校PTA、遠野小学校PTA、宮古小学校父母と教師の会、山田小学校PTA、釜津田小学校PTA

齊藤育美、上小路太一、坂本博志、田家亘、向井隆、山本良昭、成田信也、櫻田一也、日向信二、渡辺陽平、山口恒



団体の部・個人の部 各ブロックの受賞者の皆様



広報コンクール 入賞PTAの皆様

**広報コンクール
入賞PTA (18団体)**

司、佐々木勉、女鹿隆徳、北條隆範、菊池好、岩井澤伸、成瀬洋志、堀合貴子、朝岡哲志、鎌田哲暢、杉本博紀、高橋岳志、小川さつき、高橋俊樹、千葉康行、佐々木実、後藤賢一、瀬谷圭太、河合純子、稲邊督、澤田直哉、千田修、迎山光、川原夕輝、齋藤卓、菊池誠、須藤寛人、千葉悟閑、谷俊美、白金恵一、馬場貴之、小野寺康仁、姉石誠司、浜田涼、大石裕治、林崎功

**小学校PTAの部
最優秀賞**

桜城小PTA

最優秀賞

本宮小PTA

山目小PTA

優良賞

飯岡小PTA

鱒沢小PTA

奨励賞

向中野小PTA

城南小PTA

太田東小PTA

生出小PTA

花巻小PTA

青笹小PTA

**中学校PTAの部
最優秀賞**

下小路中PTA

優秀賞

見前中PTA

栗石中PTA

優良賞

遠野東中PTA

奨励賞

大宮中PTA

一関第一高校附属中PTA

遠野西中PTA

**三行詩コンクール
入賞者 (27名)**

**小学生の部
最優秀賞**

須藤 芽咲(黄海小4年)

千葉 愛奈(黄海小3年)

優秀賞

千葉 愛奈(黄海小3年)



三行詩コンクール 入賞者の皆様

最優秀賞

伊藤 俐旺(千徳小1年)

伊藤 彩心(御所小1年)

伊藤 莉子(御所小3年)

優良賞

菅原 裕菜(岩谷堂小3年)

菊池 美瀬(岩谷堂小4年)

小野寺 悠(黄海小4年)

佐藤 奈々(若葉小5年)

**中学生の部
最優秀賞**

筒井 奏登(城西中3年)

小坂 優希(仙北中2年)

高橋 正虎(上田中2年)

工藤 擧翔(城西中3年)

武田 粹楽(上田中2年)

山本 唯花(仙北中2年)

山本 唯花(仙北中2年)

優良賞

山本 唯花(仙北中2年)



来賓代表 県教委生涯学習文化財課 総括課長 小澤則幸 様



コンクール講評 県教委生涯学習文化財課 社会教育主事 高橋祐輝 様

佐藤 新(仙北中2年)
下平 優月(黒石野中2年)
名須川裕貴(上田中2年)

**一般の部
最優秀賞**

高野 美絵(岩谷堂小PTA)

優秀賞

齋藤 幸恵(松園中PTA)

優良賞

井上 瞳(黒石野中PTA)

保護者(伊保内小PTA)
筒井悠貴子(城西中PTA)

奨励賞

中嶋 悠花(越喜来小PTA)

寺島 唯(大新小PTA)

佐藤 麻美(八重畑小PTA)

伊藤 久美(黄海小PTA)



受賞者代表謝辞 向井 隆 前県P連副会長

ご来賓の岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課総括課長の小澤則幸様(県教育長様の代理)から心温まるご祝辞を頂きました。
最後に、受賞者の皆様を代表して、向井 隆様(前県P連副会長)からご挨拶を頂きました。PTA活動に関わってきた皆様や、これまで出会った方々への感謝の気持ち、そしてこれからのPTA活動への熱い応援メッセージをいただきました。

「生命尊重」の町

地域が支える西和賀の教育

西和賀町教育委員会 教育長 柿崎 肇

1 「結」の町、西和賀

西和賀町（平成17年に湯田町と沢内村が合併）は岩手県と秋田県の県境にある町です。人口減は続くものの国の

自然環境保全地域や国定公園に囲まれた豊かな自然と温泉に恵まれ、多くの方々に訪れて頂いている観光の町です。

そして、私たちの誇りにもなっているのが、日本で初めて乳児死亡率0（ゼロ）を達成した深澤晟雄村長の掲げる

「生命尊重」の理念です。この理念の下、地域医療の充実や農林業を基幹とする産業に

力を入れるとともに、「雪の深さが人情の深さ」の言葉通り「結」の精神が息づく福祉の

町です。

2 生きる力の礎

【教育の位置づけ】

「第2次総合計画」の教育文化分野の目標

「地域に誇りを持ち、豊かな心を育てる町」

として、確かな学力を中心に据えつつも

地域と共につくる

豊かな心の教育

に力を置く町の教育を推進しています。

人生100年時代。世界がどのように変化しても「生誕の地に誇りを持つ心」は、大地にしっかりと根付き、迎える未来を生きる原動力になり

ます。各学校とCS、そして

「教育振興運動推進協議会」とその7つの実践班が中心となり、町民を巻き込んだ教育に取り組んでいます。

【町全体がキャンパス】

↓支える組織

①ジョイントスクール

②学校保健会・病院

③雪国研究所・自然環境センター

④社会福祉協議会

⑤深澤晟雄の会・ぶどう座

⑥ユキノチカラプロジェクト

⑦アースコネクト 等

↓教育活動

①保・小・中・高が集いより

良い学びと生活改善研究

②「自分の健康を自ら守る子」の育成

③地域の自然についての知識と自然体験

④福祉作文と体験・ボランティア支援

⑤「生命尊重」に係る学びと演劇活動

⑥全県で活躍する方々との新たな価値ある商品開発

⑦稲作づくりを中心とした農業体験

このように町全体がキャンパスとなり、多くの本気の大人との知的交流が実現し、児童生徒の生きる力に「火」をつけて来ています。

3 小中一貫教育の推進

令和5年度には町の「保育、

学校教育のあり方検討委員会」を発足し、これからの教育のあり方について検討しました。結果、湯田・沢内それぞれの地区において小中の一貫教育を進めることと方向付けました。

これからさらなる魅力ある

学校を構築し、他地域からの児童生徒も受け入れる「教育留学」の実現と地域の方々の学びの場としていきます。沢内地区では令和10年度新校舎完成を目指し取り組んでいます。

4 「学び・生き抜く力」を育む西和賀高校

【三者の役割と連携】

〈高等学校〉

・先生や生徒の良好な関係のある環境

・少人数指導及び習熟度別の学習保障

・探求の時間及びボランティア活動が充実

・国立公立大等への進学及び丁寧な就職指導

・多くのゲストティーチャーを招いた授業と交流 等

〈町の支援〉

・学校と信頼ある連携

・生寮の整備と補助

・無料公営塾（大学進学・授

- 業補完)と模試・検定試験補助
- 通学支援(バス無料・J.R定期券補助)
- オーストラリア研修
- 昼食支援
- 中学校等への広報活動等
- 〈地域〉
 - 町の資源を活用した体験の提供
 - 学校・地域行事への関わりと生活(寮生活も含む)支援
 - 高校魅力化コンソーシアムの推進 等
- 三者が連携し、豊かな教育が展開される学校となっております。結果、国立大学への進学も多数でています。

令和7年度からは「個に応じた対応」「地域が支える」「四季ある豊かな自然の中で学ぶ」を掲げる西和賀高校が、県教委をはじめ多くの方々の協力により定員80名の2学級となり、生徒達にとっては「これから生き抜く力」を育てる小規模の学校として育てていきたいと考えています。

5 終わりに

体験・経験から誇りを創る西和賀の教育(総合編)

地域のワクワクを学びに

<p>偉人 産業 自然 文化 国際 ...</p>	<p>深澤晟雄 ・生命尊重の精神を学ぶ 林業/農業 ・育てる・収穫・交流 地下資源 ・鉱物発見と標本づくり 地域演劇 ・中学生演劇 JICA交流 ・世界の課題 議会提案等</p>	<p>【保育所・園】 ・5感を育む ・気持ちを言葉へ 【小学校】 ・体験活動重視 ・調べ方を学ぶ 【中学校】 ・追体験から経験 ・課題の発見 【高等学校】 ・課題解決提案 ・コミュニケーション スキルの向上</p>
---	---	---

「探究カレンダー」
春夏秋冬

プロフィール



柿崎 肇
(かきざき はじめ)
旧大東町の大原中学校の教員としてスタート。平成19年度全中バレーボール大会事務局、平成21/22年度宮古市PTA連合会事務局、遠野中・江釣子中校長を経て令和2年度より現職。

西和賀町議会より No.77 R7.1.15

少人数・小規模だったから今の僕がいる

山崎 虹誠 さん
西和賀町生まれ。西和賀卒業生。習字、大学入試、英語、数学に優れる。現在は早稲田大学経済学部に在学中。

僕は盛岡市の居酒屋でバイトしていますが、店長から「西高、定員が増えるらしい」と教えられて、驚きました。生徒数が増えでも、小規模教育の良さも維持できれば、よりエネルギー的な学校になるだろうと期待しています。

大学に進学してから、西和賀の教育は「自分はどう考えるか」「どうしたいか」という主体性を育てるものだったと感じました。たぐさんの同世代に出会いましたが、問題にぶつかると同時に、「まあ、いっか」と解決を先送りする人や、思考停止してしまう人が結構いるからです。

西高では問題解決のための思考力も鍛えられました。「総合的な探究の時間」では、はっきりとした答えがない中で、仮説を立てて、手探りで少しずつ前に進んでいく問題解決のやり方を身に付けられました。志望校から逆算して、まずは自分で勉強の計画を立てるという道徳指導でも、自主性を育ててもらいました。

大学では過疎地域に関する授業も受けています。「関係人口を増やして地域を盛り上げる」という話もあれば、無理やり存続させるのではなく、窮乏のある集落の閉じ方を提案する話も出ます。

同じ規模の地域の話では、自然と西和賀を離れて考えます。自分が生まれ育った町だから帰省すれば落ち着く、これからは何らかの形で町に関わりたいたいと思うながら、今だからできることに向き合っていて、帰郷を願っているつもりです。

第29回家庭教育セミナー

(和賀地区・久慈地区)

今年度の第29回家庭教育セミナーは、『育もう 人と人とのつながりを』と共に学び 個性を認め伸ばし 未来に夢を『をテーマに和賀地区と久慈地区の2会場で開催しました。

和賀地区セミナーでは『沢内・生命尊重行政が今に伝えること』について、久慈地区セミナーでは『依存は子どもSOS』子どもを『知る』ことから始まる支援』についての講演から、学びを深めました。
セミナーの内容や様子については、ホームページに掲載している「報告書」等をどうぞご覧ください。

今から60年前、西和賀町旧沢内村深澤村長のお話は、今ここに暮らしている住民の一人一人の命に向き合い、生まれてから終えるまで健康で文化的に安心して暮らせるよう、旧沢内村の三悪（豪雪貧困多病）の改善するため、一台のブルドーザーの購入から始まり、保健活動、病氣予防活動、対話をする事で自分たちが考え自治の力を生みだし

切さを改めて考えさせられました。私たちが今ここにある現状を理解し、どう心豊かに暮らすのか、憲法25条(生存権)と生命尊重の深澤村長の精神が今の西和賀高校に受け継がれていて、つながることで助かる命とつなげることで未来の助かる命があると感じました。

(和賀地区母親委員

宮原 敦子)

今回のセミナーでは多くの親が今一番聞きたい講演内容だったと思います。「ダメ、ゼツタイ」は逆効果や、肯定形に言い換えることなど、日

*

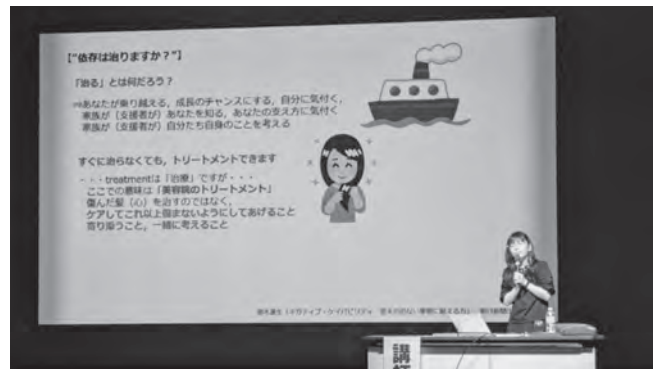
常での会話内容一つで少しでも子供に良くも悪くも伝わるということなど、すぐに実践できる内容でした。否定も肯定もしない、ゲームにコントロールされるのではなくて、自分がコントロールできることが大事だね」と伝えること。また子供だけではなくて、私たち親世代もスマホを無意識で触っています。病院の待合室を見ても、ほとんどの親がスマホを見ている光景が当たり前になっています。家族も一緒に「デジタルデトックス」することが重要と考えさせられました。

子供だけではなく、親のデジタル依存も一緒に改善していき、3つの薬「目薬」「日薬」「口薬」を意識しながら、コミュニケーションを大事にしていきたいと思います。

鈴木先生の貴重なご講演を聞いて、子供との接し方など考えさせられるきっかけとなりました。

(久慈地区母親委員

高橋 留美)



第56回日本PTA東北ブロック研究大会 東青大会

期日：令和6年9月7日(土)・8日(日)

場所：青森県青森市・平内町 6会場

「子どもを感動させろ、子どもを感動させるにはおまえ自身が感動しなきゃいかん。そのためには学びを止めるな。」すべては子どもたちの笑顔のためにを大会テーマに、青森県青森市、平内町の6会場で開催された東北ブロック研究大会の様子を前号に続いて報告します。

第4分科会では、岩手県でも取組みが進められている『運動部活地域移行』をテーマに、元青森山田高等学校新体操部監督である荒川栄さんから『マルチスポーツの可能性と運動部活動の地域移行』についてのご講演をいただきました。近年、国内や海外で活躍をされている日本人アスリートが多くが幼少期に複数のスポーツを同時期に行うマルチスポーツに取り組んでいるとのことでした。これは、一つのスポーツに偏らないことで、バランスの良い筋肉をつくり怪我を少なくすることや、競技への情熱を失ってしまいう『燃え尽き』を少なくする効果があるとのことでした。

また、マルチスポーツにより7つの神経系能力(空間認知能力、リズム能力、操作能力、調節能力、応用能力、バ

ランス能力、動作変換能力)が鍛えられ、非認知能力(諦めない力、自己肯定感、コミュニケーション能力、協調性)を高める側面も期待されることでした。マルチスポーツの効率的な取り組み時期としては、人間が様々な運動パターンを習得する3歳から7歳が良いとのことでした。

部活動の地域移行については、『地域移行』ではなく『地域連携』と考えるべきで、具体的な事例として『青森山田スポーツアカデミー』の活動を紹介していただきました。これは、スポーツ強豪校である青森山田中学校・高等学校のスポーツ力を活用し、地域の子ども達へのスポーツ指導、様々な体験、出張アカデミーを行うという内容でした。それ以外にキッズからプロまで一貫した指導体制が構

築された『BLUEアスリート』という事例も紹介をしていただきました。

今回の講演で、身近にある環境を活用し、子ども達にとって最適なスポーツ環境や体制を構築することが重要であると感じました。

(副会長 福田 育英)

*

第1分科会(健全育成・家庭教育)に参加しました。テーマは「家庭や学校が抱える様々な課題へフオーアアップ」と題して、いじめや不登校、学校と保護者と地域の関わり方等パネルディスカッション形式で行われました。

学校生活に不安や悩みを抱える子どもへの声のかけ方や接し方と居場所作り、学校行事だけでなく地域の祭りや伝統芸能を通じて子どもと保護者と地域の人達が交流する

ことで郷土愛や人との繋がりが感じることが出来る等実例発表を聞き、合間に近くにいる人と話し合う時間やスマホでリアルタイムの意見をコーディネートターがピックアップし更に深めていく会場の一体感があるセミナーでした。

保護者としての役割、地域の人としての役割、PTA役員としての役割をしっかりと考え、改めて子どもの健全育成には多くの大人の「目」と「手」が必要なのだと再認識しました。

(副会長 山口 真樹)



第72回日本PTA全国研究大会川崎大会

期日：令和6年8月23日（金）～24日（土）

場所：神奈川県川崎市 川崎市とどろきアリーナ

『ウエルビーイングの実現を、川崎の地から』活かそう「縁」の力』を大会スローガンに神奈川県川崎市で開催された、日本PTA全国研究大会川崎大会の様子を、前号に続いて報告します。

『ウエルビーイングの実現を川崎の地から』をスローガンに開催された第72回日本PTA全国研究大会。

ウエルビーイング。よく耳にする言葉ではあるが、本質的な意味を考えたことはありませんでした。辞書的には

「well」＝良い、「being」＝状態、在り方。では、その良い状態を作っていくにはどうしたら良いか、PTAの立場で何が出来るのかを考えた時間になりました。

特に印象に残っているのは、認定NPO法人フリースペースたまりばの西野氏の講演です。既存の制度や競争に子どもを向かわせるのではなく、子どもの自己肯定感や安心して失敗出来る環境づくり、そして他者との繋がりを感じられる事が大事だとおっしゃっていました。

『誰かと繋がっている実感を育むのは一番は家庭』という言葉。丁寧に意識して日々の生活を送っていきたいと思いました。

また、住んでいる地域ごとで色違いのリストバンドを装着し、異なる色のリストバンドの人とチームを組みグループディスカッションを行った事も非常に印象に残っています。本筋からは逸れるかもしれませんが、私のグループでは私以外は比較的都市部在住の方でしたので、学校の規模の違いによってPTA活動への向き合い方が大きく異なっている事を知れました。どちらが良い悪いという訳ではなく、「PTAを取り巻く環境はこんなにも違うんだ」を知ることができました。

今回、初めて自分が住む町から出たPTA活動に参加



させていただき、月並みな言葉かもしれませんが確実に視野は広がったと思っております。そのような経験をさせていただき感謝申し上げます。まずは自分の身近な所から実践していきたいと感じた日本PTA全国研究大会でした。
(副会長 金澤 辰則)

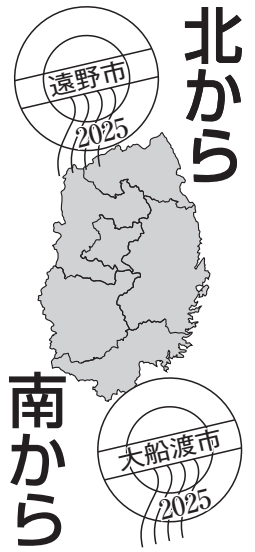


この季節の川崎はとても暑く会場に着くまでに汗拭きタオルが絞れるほどでした。やはり岩手は住みやすい地域だと実感してきました。川崎大会はウエルビーイングというあまり聞きなれない言葉がコンセプトの大会で、意味はハッピーとは少しニュアンスが違う幸せとか幸福ととらえる言葉のようでした。
様々な箇所でウエルビーイングに繋げる活動を聞き学ぶことができました。特に子供に接するときに使いがちな「ちゃんとしろ」とか「普通にしろ」とかの抽象的な言葉ではなく「くをすればもっといい」などしっかりと内容を伝え肯定的な言葉を使うなど私たち親が気づかず使っていた言葉も見直すことも出来ました。実際私たちの会議でも否



定的な考えから入らず肯定的な考えからアプローチしていけばもっと円滑で明るい会にしていけるのでは？と考えさせられました。これまでの考え方や無意識に行っていたことなど、ウエルビーイングに繋がるPTAでの活動の仕方を考えることになった貴重な機会でした。
(副会長 野場 貴行)

特色あるPTA



「想い」を大切にしたPTA活動

遠野市立遠野東中学校PTA

本校は遠野市の東側、六角牛山の麓に位置し、平成二十五年に旧青笹・土淵・上郷中学校の統合により新設された創立十二年目の学校です。

本校PTAは、研修部・厚生部・広報部・地区委員会として学年委員会により構成されています。各部の活動としては、家庭教育ゼミナールの準備・運営、年2回の広報作成、フードバンクへの寄付、廃品回収、親子レクなどが行われています。

広報「東中の風」は、生徒やPTAの活動紹介だけでなく、中学生あるあるや保護者の思い出、地域自慢などを取り上げた「走れ！広報部」のコーナーがとても楽しい内容となっており、二年連続県P連コンクールで入賞することができました。

コロナ禍に入り、校舎内外の環境整備作業を実施することも難しくなったため、令和三年度からは、厚生部を中心にフードバンク岩手への支援活動を行っています。学期末



学年レクの様子

の三者面談で保護者が来校する際、賞味期限まで二か月以上あり、常温保存できる食品を各家庭から寄付をしていただいております。今年度は、地域の事業所からも災害対応用備蓄品を寄付していただきました。

今後も学校・家庭・地域が一体となり、それぞれの「想い」を大切にしたいPTA活動を推進してまいります。
(校長 佐々木 誠)

よりよい活動を模索しながら

大船渡市立第一中学校PTA

令和4年度に日頃市中、越喜来中、吉浜中と統合し、新生「第一中学校」をスタートさせ、3年目を迎えている。学区が広がったことで、PTA活動の充実化のために、どのように運営していくか、現在でも模索を続けている状況です。今年度は、活動スローガン「共に学び、共に育つために、一人一人が参加するPTA活動の展開」を掲げ、文化教養部、保健体育部、生活指導部で各種取組を行っています。代表的なものとして、生徒会企画の新校舎を60年持たせる取組の一助に年2回6



フードバンク 地域・保護者からの寄付

月と10月に行われる親子環境整備作業が挙げられます。それぞれの作業日に学年を割り当て、取り組んでいます。当日は多くの保護者に来ていた



親子環境整備作業

だき、親子で交流しながら温かな雰囲気の中で行われ、非常に気持ちの良いものとなりました。その他、家庭教育学級の開催、広報紙の作成など行っています。
3年ぶりに本校グラウンドにて運動会を開催した際も、多くの方々が来校し、声援を送るなどを盛り上げていただきました。

今後、部活動地域移行に関わり、多くの理解と協力をいただきながら進めていくことになるかと思えます。そのためにも日ごろの連携を密にし、子の成長に繋がる取組を実践できればと思っています。
(校長 村上 貴彦)



3年ぶりの本校グラウンドでの運動会

市町村PTA連合会紹介

二戸市PTA連合会

子どもたちと保護者がともに幸せになるPTA活動をめざして

二戸市PTA連合会は、小中合わせて11校のPTA会員約千四百名で構成されています。本連合会では毎年11月に二戸市教委と共催で教育振興運動集約集会・PTA研究大会を開催しています。大会では2校の単位PTAから日頃の活動を発表いただいています。今年度は福岡小と仁左平

小から特色あるPTA活動について発表がありました。その後、タレントのなすび様を講師に講演会を開催しました。かつての人気番組のイメージが強いですが、現在、出身の福島県を応援する活動に幅広く取り組んでおり、地域愛について熱く語っていただき、大変感動的な学びの多

未来を担う山田の子どものために

山田町PTA連合会は小学校2校、中学校1校のPTA役員776名で構成されています。

ここ数年は、コロナ禍にあつて参集しての共通した事業を実施できない状況が続いておりました。地域コミュニティの繋がりが薄れていく中で、このままでは町PTA連合会としての活動も停滞してしま

う危機感を感じておりました。そこで、12月に各校のPTAで実践していることを交流しました。この会を通して、今後の山田の子ども達に必要な活動を考えていく機会とすることができました。

山田の未来を担う子ども達が地域の伝統を守り、町を支えていけるように各単位PTAの連携を深めていけるよう

い講演会となりました。

来年度は県PTA研究大会が二戸市を会場に開催されます。多くの方が来訪されることを楽しみにしています。

(事務局 大道 篤史)



取り組んでいきたいと思えます。

(事務局 上村 佳邦)

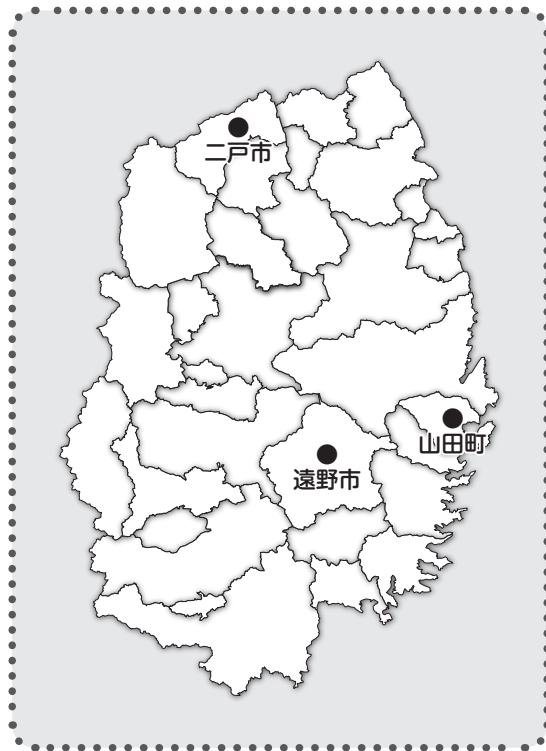


遠野市PTA連合会

子ども達の笑顔のために

遠野市PTA連合会は小・中学校14校のPTAで構成され、市全体での交流を深めることを目的に様々な活動を行ってきました。11月には交流事業としてレクリエーション大会を実施しました。パラスポーツ競技などを行いました。また、当日は県P連山下会長にもご参加していただきみんなで楽しく交流を深めることができました。

また、今年度から母親委員会の名称を「子育て応援委員会」に改称しました。委員会の活動として「ほっとひと息



おいしいコーヒーの淹れ方講座」、「夢みる小学校上映会」等を企画し、子育てについて女性だけではなく保護者みんな



レクリエーション



コーヒー講座

なで考え、話し合う貴重な時間となりました。
子ども達の笑顔のためには親も教師も笑顔でいたい！遠野市P連はこれからも遠野の子ども達のために明るく活動していきたいと思えます。

(事務局 橋本 大助)



記念Tシャツで参加した市民パレード。「学生の部優秀賞」受賞

この度、日本PTA全国協議会会長賞をいただきましたこと、関係各位の皆様へ深く感謝申し上げます。
さて、本校は明治7年創立、平成24年成田小学校との統合を経て、令和6年度に創立150周年を迎えました。例年の活動に加え、今年度は記念事業にも取り組みました。
胸元に飯豊鬼剣舞・校章・桜、背中に「Tiyojo」の力強い文字が爽やかな水色に映え

創立76年目のPTA活動
北上市立飯豊小学校PTA

祝
日本PTA全国協議会会長賞

全国表彰PTA紹介



8年ぶりに復活した『飯豊森遠足』

る記念Tシャツの作製。デザインは6年児童に募り、記念運動会や記念式典で全校児童が着用しました。北上みちのく芸能まつり・市民パレードでは、参加した児童が元気なかけ声と笑顔で踊りました。
本校PTAは、昭和23年の創立以来、地域と共に歩み続けてきました。今後も児童が健やかに育つことができる環境を家庭と学校、地域とで力を合わせて守っていきます。
(事務局 佐々木 健)

地域に支えられたPTA活動
軽米町立軽米中学校PTA

この度、本校PTAが、日本PTA全国協議会から表彰状をいただき、関係各位の皆様へ感謝申し上げます。
本校は10年ほど前に4中学校が統合してできた町内唯一の中学校であります。各地域に伝わる神楽や太鼓等の伝統芸能活動を毎年1つ学びそれぞれを本校の文化祭で発表しております。特に今年は地区・県の中学校総合文化祭でも発表する機会があり、無事演舞することができました。
練習の際には、地域の方々のご指導を受け、保護者も着付け等を協力しながら活動しました。地域と保護者、学校が協力しながらこのような活動を行っております。これからも地域、保護者が一つとなり生徒たちの健全育成に努めていきたいと存じます。
(事務局 山崎 弘貴)



これまでのPTA活動に心より感謝いたします

今年度末をもって、閉校・統合する学校は11校です。これまで地域と共に子どもたちのためにPTA活動を行ってきていただいたことに、心より敬意と感謝を申し上げます。閉校・統合となる学校のPTAに対しまして、岩手県PTAより感謝状を贈呈させていただきます。

- 【盛岡市】 生出小学校 ⇒ 渋民小学校へ
【一戸町】 鳥海小学校 ⇒ 一戸小学校へ 小鳥谷小学校 ⇒ 一戸南小学校へ
【九戸村】 伊保内小学校・長興寺小学校・戸田小学校・山根小学校・江刺家小学校
⇒ 新設『九戸小学校』へ
【岩泉町】 釜津田小学校 ⇒ 岩泉小学校へ
【大船渡市】 大船渡中学校・末崎中学校 ⇒ 新設『大船渡中学校』へ

令和7年度の主な事業（予定）

- ◇ 地区・市町村 PTA 事務局長会議 (5/12)
- ◇ PTA 広報コンクール審査会 (5/20)
※応募締切 (5/13)
- ◇ 定時社員総会 (6/7)
- ◇ 岩手県 PTA 保護者と教師の交流研修会 (7/5)
- ◇ 三行詩コンクール審査会 (7/9)
※応募締切 (6/13)
- ◇ 共済事業担当者事務説明会 (8/6)
- ◇ 全国 PTA 研究大会 (石川県金沢市 他) (8/22～23)
- ◇ 東北ブロック研究大会 (宮城県仙台市) (9/13～14)
- ◇ 岩手県 PTA 研究大会二戸大会 (二戸地区家庭教育セミナー) (9/27)
- ◇ 気仙地区家庭教育セミナー (11/8)
- ◇ 岩手県 PTA 連合会年次表彰式 (11/29)
- ◇ 日本 PTA 年次表彰式 (12/2)
- ◇ 臨時社員総会 (3/7)

この他に、理事会 (4回)、正・副会長会議 (8回)、監査 (2回)、専門委員会 (1回)、子育て応援委員会 (4回)、共済金審査委員会 (3回) 等が予定されています。

(訂正とお詫び) PTAいわて 179号の中で紹介した三行詩コンクール中学生の部で奨励賞に入賞した山本唯花さんの学校名は「仙北中2年」でした。訂正してお詫びいたします。

編集後記

ご寄稿をいただいた、緑が丘小 PTA、大船渡・第一中 PTA、遠野東中 PTA、軽米中 PTA、飯豊小 PTA、二戸市 P 連、遠野市 P 連、山田町 P 連、そして西和賀町教育委員会教育長の柿崎 肇様に心より感謝申し上げます。お忙しいところ本当にありがとうございました。

今年度予定されていた全国・東北の研究大会や県 P 連の各種研修会等も、会員の皆様や関係の皆様ののお力添えを頂きまして予定通りに実施することが出来ました。本当にありがとうございました。また、ホームページも全面リニューアルしております。是非ご覧いただきましてご活用いただければと思います。

来年度の予定は上記の通りとなっています。岩手県 PTA 研究大会は二戸市での開催です。全国研究大会は石川県金沢市等で、東北ブロック研究大会は宮城県仙台市で開催されます。県 PTA 保護者と教師の交流研修会や二戸地区・気仙地区での家庭教育セミナーも開催します。多くの会員の皆さまに参加していただき、大きな学びとたくさんの仲間づくりが出来ることを願っています。